

6つの提言

提言 1

サービスハブで仕事・住まい・福祉（健康）を結びつけて多分野が横断した再チャレンジ可能なまちづくりを推進する

このまちの特長である社会的包摂性と地域の利を活かした幅広い就労機会や生きがいの場（ダブルエンジン）を創出し、安心して暮らせるように仕事・住まい・福祉（医療）が結びつく多分野横断型サービスハブの構築が不可欠である。ここで生まれる多様で多層な仕事が、現在の人だけでなく新しい人をも呼び込み、住まいと福祉が連動することで「再チャレンジ」可能なまち再生へと深化すると考える。

提言 2

居場所づくりを通じてまちをシェアするコレクティブタウンを目指す（しなやかに強いエリアリノベーションを推進）

このまちには、多様な「居場所」⁸がある。自然発生的に形成されてきたこの場は、「命を守る場」、「つながりの場」として西成のまちを特徴づける要素になっていると考える。今後は、まちにあるヒト・モノ・コト（社会資源）をつなぎ合わせながら様々な居場所をつくるプロセスを通して「出会いと出番・役割」を生み出し、各々をシェアして紡ぐ「コレクティブタウン」⁹を具現化することで、災害や生活不安に陥った際など、いざという時にこそしなやかに強い（レジリエントな¹⁰）まちづくりを推進すべきである。

提言 3

地域に子どもの声が広がる子育て・子育てしやすい「ミックスコミュニティ」を推進する

まちは究極の少子・男性・高齢社会状態にあり、縮退の街へと移行している。今後は、多様で多層な世帯や世代が共生（ミックスコミュニティ¹¹）する子育て・子育てしやすい環境づくりを通して「子どもの声が聞こえるまち」への移行が求められている。そのためにも、広域的視点を含め 地域実情に応じたゾーニングによって「滞在・暫住・定住」¹²のグラデーションを埋める仕組みづくりが必要である。

提言 4

優しい！ おもしろい！ 大阪らしいまちでイメージアップ まちの未来を担う次世代育成（アーカイブ＋アクティブラーニング）

このまちは、優しさと面白さを兼ね備えた「大阪らしさ」を強く残すまちである。実際に多くの人がこのまちに関心を持っているが、偏った情報によってイメージが作られている実態もある。そこで、まちの歴史・文化とまちづくりに関するアーカイブ事業や表現活動をさらに発展させ、小中一貫校や子ども支援団体と協働した子どもガイドなど、これからのまちの未来を担う次世代育成を意識した活動と情報発信を通じてまちのイメージアップを図る戦略が必要である。

提言 5

連動する地域ボトムアップと具現化のための行政局間連携（横串化）による協働システムを構築する

ビジョンの具現化にあたっては、市・区・府・国などが連携している西成特区における関連会議の進展に沿って具体化を図るとともに、具体化したハードやシステムをうまく活用することが重要である。そして当事者が実感し、検証可能な暫定的・段階的な取組みをトライアル（見える化）することが肝要である。そのためにも地域主体のボトムアップの取組みを推進すると同時に行政施策が連動するまちづくりを進め、各主体が真に連携した横串システムを構築する必要がある（市の成長戦略にも明記すべきである）。

提言 6

ジェントリフィケーションによる弊害が起きないように外部力をしなやかに活かしたまちづくりを進める

新今宮駅周辺では、リゾートホテルや外部資本による開発が進みつつある。このまま放置することによる地域との文脈なきジェントリフィケーション¹³を避けるためにも、広域的視点も考慮しながら関西の玄関口ともいえる交通結節点にあるこの地の利を活かし、「外部力」をしなやかに活かした連携を検討することが重要である。この地を訪れる年間 50 万泊ともいわれる旅行者やインバウンド効果を活かしながら、庶民的で特徴的なこのまちの歴史と文化を大切にしたいまちづくりを進める必要がある。

さ 「サービスハブ」で仕事・住まい・福祉を結びつけて多分野が横断した再チャレンジ可能なまちづくりを推進する

い 居場所づくりを通じてまちをシェアする「コレクティブタウン」を目指す（レジリエントなまちづくり）

ち 地域に子どもの声が広がる子育て・子育てしやすいミックスコミュニティを推進する

や 優しい！ おもしろい！ 大阪らしいまちで イメージアップを図る（まちの歴史文化・教育が連動するアーカイブ）

れん 連動する地域ボトムアップと具現化のための行政局間連携（横串化）による協働システムを構築する

じ ジェントリフィケーションによる弊害が起きないように、外部力をしなやかに活かしたまちづくりへ

-
- ⁸ 「居場所」という言葉は、様々な捉え方があるが、本提言では『主に空間・時間と関係性（モノ・コト・ヒト）に現れる「場」として「社会的居場所」と「個人的居場所」に分類され、①アイデンティティ／「自己」という存在感を感じる、②自己と他者との「相互承認」によって生まれる、③場の要素が相互浸透的につながる、④自己の位置（役割）や生きがいを獲得する、⑤身を守るためのシェルター的な安心を保てるような要素をもつ場』（寺川,2014）と定義する。
- ⁹ 本提言では、『地域コミュニティにおいて多様な居場所（機会）が確保され、地域が住まいの続きのような機能を満たす、多様で多層にシェアされた協同居住のまち』（寺川,2004）と定義しておく。これは、まちを住まいの一部としてまちの資源をシェアする点にある。いわば、住まいとまちの間に所有から共用（利用）の概念を再構築し、地域資源を活かして緩やかにつながる選択可能な出会いの機会と居場所があるまちをいう。この概念に関する他の定義としては、『一人ひとりの高齢者の安心・自立居住が可能となるような居住一福祉一まち一体型住環境』（乾,2002）や『コミュニティ・まちに関わる人々が、ゆるやかな共同生活のような人間関係や空間の中でまちを感じ、ささえながら成長していくまち』（内田,2010）などがある。
- ¹⁰ もとはストレスの反対語として物理学で使われ始めた言葉であるが、『回復力・抵抗力・復元力・耐久力』という心理学用語として広がり、現在では情報技術、環境や災害社会学など幅広い分野で用いられている。その構成要因としては、「自尊感情」「安定した愛着」「ユーモア」「楽観主義」「支持者の寄りそい」などがあり、「自尊感情と正の相関」「ネガティブライフイベントや苦痛ライフイベント経験数と無相関」であるといわれている（小塩真司他、2002）。昨今のITの世界や災害に際して想定外の被害が予測される時代にあって、被害を前提に「壊れきらない」仕組みが重要とされている。いわば雪折れしない柳の木枝のようなしなやかな強さを表現している。これらは、まちづくりにおいても極めて重要なキーワードであるとの考えから本提言に組み込んだ。〔寺川〕
- ¹¹ まちづくりの分野で用いられる、いろいろな世帯や世代が混在したコミュニティのこと。
- ¹² 有識者の議論の中で生まれた概念。松村による中国社会における「暫住」という概念提起をきっかけに、水内による「暫居」や寺川による「歴史的に継承されてきた施設（宿）と定住の間（あわい）にあるグラデーション」などが議論された。「滞留-来訪-滞在-暫居-暫住-定住」や「交流人口-関係人口-定住人口」など、様々な人々がまちとつながるきっかけの豊かさを活かしたまちづくりの重要性を示しており、社会変化を受け止めた柔軟な視点をもってこれからのまちについて検証すべきであるとの考えでもある。〔寺川〕
- ¹³ 街が変わっていくプロセスのひとつで、まちの高級化と訳も見られる。欧米では、特に衰退気味なインナーシティにおいて、主に不動産業社により住宅がリフォームされ、中高収入のプロフェッショナルな（専門職など）人々が転入し、家賃が高騰し、この市場の動きで、元住民が転出せざるをえなくなる、排除されてしまう現象をさしている。日本では、どちらかというと旧市街地が空洞化し、家屋を手放す層が増えてくる中、その資産を民間主導で住宅開発、再開発を行い、子育てのサラリーマン世帯や、若い夫婦、単身の専門職をターゲットにした新築マンションなどの建設により、街が景観的に変わっていく現象を指すことが多い。従前の賃貸者が転出せざるを得ない場合、代替住宅の斡旋や移転補償などで露骨な排除は日本では薄められている。むしろ、公園や公共敷地からの路上生活者の排除と、その後のクリーンナップという側面が日本では、まち全体のジェントリフィケーションにつながるものとして争点化されている。〔水内〕

5つのアクション（事業提案）

1

仕事・福祉-医療と住宅施策の連携モデル

【サービスハブ】

暮らしをめぐる多分野の既存制度や組織・主体を横串化する体制を構築し、暮らしをワンストップでつなげる伴走型支援の実践モデル

- サービスハブネットワーク検討委員会設置と行政との連携の仕組みづくり
- 関係者へのニーズ・運営等に関する調査
- 新たな就労機会を生む就労連携モデル事業（国・府・市と連携）
* 既存の日雇労働紹介事業のあり方については、国・府によって検討中
- まちとつながる孤立防止と地域医療連携モデル事業

2

居場所×ハウジングをテーマとするエリアリノベーションによる減災まちづくりモデル

【コレクティブタウン】

まちなかの地域資源をシェアする「コレクティブタウン」による減災まちづくりを推進することで、多様な世帯が元気で安心して暮らせるまちを実現する。

- 持続可能な事業運営手法の確立（居住支援ネットワーク及び支援法人等の設立）：空き家BANK・廃材BANK（もったいないプロジェクト）／インスペクション／西成警察署と連携した違法民泊対策／西成版リノベーションスクール・事業コンペ開催など
- エリアリノベーションに関わるストック（空き地・空き家）再生モデル事業（建築補助）
- 居場所モデル事業：地域に暮らす多様で多層な人々の居場所づくり（新萩の森・広場・公園・商店街・施設等の整備→持続型運営モデル）

3

子どもの夢実現・まちの担い手育成モデル

【アクティブラーニング×アーカイブ】

まちの情報アーカイブを活用したアクティブラーニングによって、子どもの自己実現を育む「夢」の実現を図り、次世代まちづくりの担い手を育成する

- 情報アーカイブとの連携事業（案内・外国語・情報誌作成など）
- 子どもの夢実現プロジェクト（子どもの居場所・遊び場づくりモデル事業）
- 森とつながる木材リユースワークショッププロジェクト
- 小中一貫校における地域学習と連携

4

にぎわい創出地域交流モデル

【チャレンジ拠点整備】

「地の利」を活かして多様な人々の交流の場をつくり、その化学反応からまちににぎわいを与え、愛着と定着を生む機会を創出する

- 地域賑わい「屋台村」事業＋商店街拠点再生事業
- イベント交流事業体制の構築と広域ネットワークとの連携整理
- 情報アーカイブとの連携事業（案内・外国語・情報誌作成など）
- 仮移転する労働関係施設の本設移転後の利活用検討事業

5

西成イメージアップキャンペーン

【イメージアップ】

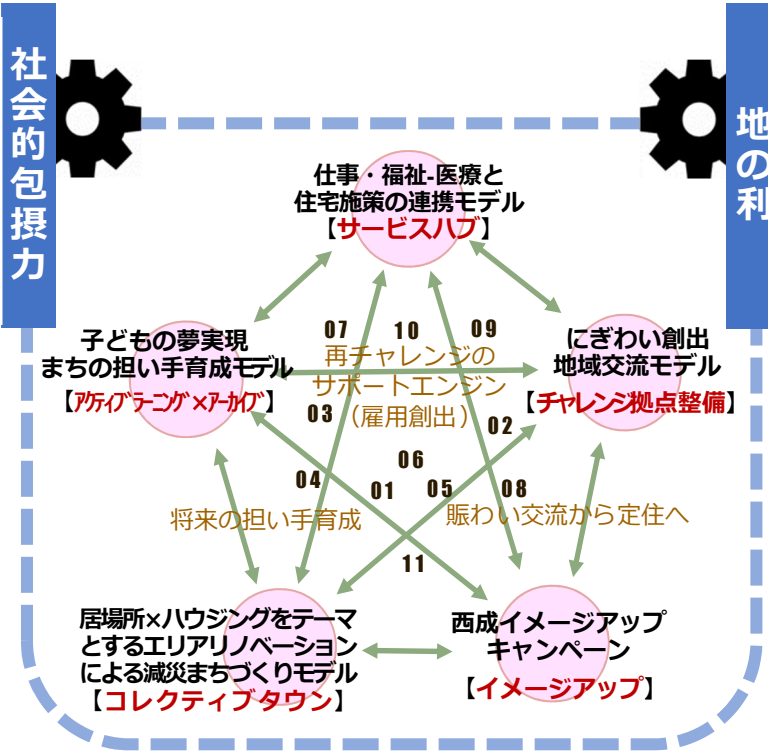
地域イメージに対する意識的・景観的・社会的に再価値化する情報発信

- 地域資源発掘プロジェクトを通じた西成若者会議（次世代育成）
- 西成応援団結成（関係人口のネットワーキング）
- 環境整備事業第2弾：環境美化＋トイレプロジェクト・壁アートプロジェクト
- 情報技術（IoT・ICT・VR等）を活用したプロモーションキャンペーンモデル事業
- 国連「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成に貢献する地域共生社会の実践モデル地区
- まちなかアート・緑化プロジェクト・まちのトイレ向上作戦

5つのアクション

- 100 を超える多様な地域(支援)団体の存在と行政支援窓口の充実
- 緊急時の経験が蓄積
- 制度の間を埋めるインフォーマルな仕組みの存在
- 仕事の確保や宿泊の場を確保しやすい環境
- 物価が安く利便性も良い
- ありのままに居場所がある ほか

社会的包摂力



- 関西の交通結節点
- 50 万泊/年のバックパッカーインバウンド効果
- 大阪の下町らしさ
- 空家等ストックの存在
- 新今宮駅北の開発ラッシュへの対応
星野リゾート・南海電鉄開発・地下鉄なにわ線開通ほか
- G20 の開催や万博招致活動 ほか

地の利

滞在(滞留)と定住、宿泊と住まい、就労と福祉、行政と民間の制度や役割の「間」にあるグラデーション(バラバラであった人的資源・空間資源)を再構築する全国初の試み。

注) 数字 01~11 は下記「まちづくり 12 の物語」の番号

